

# 間違いだらけの 論客選び



〈劣化言説の時代〉と  
〈ポスト劣化言説の時代〉の比較研究

月刊テキストマイニングレポート Vol.8 2017年12月31日号 (特別編)

後藤和智

(後藤和智事務所 OffLine)



# 間違いだらけの 論客選び改

〈劣化言説の時代〉と  
〈ポスト劣化言説の時代〉の比較研究

後藤和智（後藤和智事務所 OffLine）

2017年12月31日（コミックマーケット93）

## 注意

1. 本書で使用したテキストデータは元の書籍を著者自らがデータ化したものです。
2. 本書を著作権法の定める私的使用の範囲外で公開などを行うことを禁じます。また、本書の使用により生じた問題についての責任は負いかねます。

# まえがき

69冊目の同人誌となります、後藤和智です。

2016年の冬コミで、『間違いだらけの論客選び——2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析』なる、東日本大震災以降に刊行された「日本論」「日本人論」「日本社会論」計40冊をテキストマイニングによって数値化し、そのパラメータを示すというなんとも無謀な企画をやってみました。その日は出展が東方で、東方の新刊がなかったので売上はほとんど期待できなかったのですが、メロンブックスがかなりの数の受け入れを了承してくれたこともあり（評論で100部受け入れてくれるなんて思ってもいませんでした）、またfinalivent氏や稲葉振一郎氏などが紹介してくれたこともあって電子版でもそれなりの売上を達成することができました。

その時から思っていたのですが、2010年代の「言論」を分析したのだから、今度はそれ以前と比較してみたいという希望がありました。というのも、これは2017年6月に出た商業新刊『現代ニッポン論壇事情 社会思想の30年史』（北田暁大、栗原裕一郎両氏との共著、イースト・プレス（イースト新書））でも述べたのですが、我が国の「言論」は2010年代から一気に変わります。それまで日本社会や若者を批判する言論（劣化言説）が中心だったのですが、それ以降は日本の「希望」を語る言説が目に見えて増えてきた印象があります。これは、2011年3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震・東日本大震災が原因ではどうもなさそうなのです。もちろんそれは大きなファクターではあるのですが、少なくとも決定的要因ではない。例えばこの流れを決定づけた（本書には登場していないのですが）福嶋麻衣子といたにまさきの『日本の若者は不幸じゃない』（ソフトバンク・パブリッシング（SB新書）、2011年）が出たのは2011年1月、つまり震災前であり、さらに同書のきつかけとなった、福嶋氏が出演した「朝まで生テレビ！」が放送されたのもっと前でしょう。つまりこのような流れは震災前から準備されていたと考えるべきです。

劣化言説、日本社会批判、若者バッシングの時代から一転して「希望」の時代へ——。もちろん相も変わらず劣化言説を転嫁している論客は少なくはないのですが、大筋でこのような流れが見られます。若者論で言うとロスジェネから古市憲寿やSEALDsへ、と行うことができるでしょうか。そのような「言論」のダイナミズムを計量テキスト分析、統計学でどこまで解き明かすことができるのか、という試みです。

二つ目は、「オタク論」を我が国の言論の中にどのように位置付けることができるかという関心事です。というのも、我が国においては様々な「オタク論」が、若者論、ひいては社会評論全体に大きな影響を与えてきました。またロスジェネ程度の男性オタクによる議論は、いまのまとめサイトに代表されるような反フェミニズムと密接に繋がっております。特に2017年夏頃には、真木よう子氏のコミケ参加騒動に代表されるような、男性向けオタク分野の反女性的傾向が浮き彫りになった事象がツイッター上で相次ぎました(個人的には、例えば福山雅治氏が自分を題材にしたBL本をクラウドファンディングで出す、と言ったのだとしたら、ここまで騒ぎは大きくならなかつたのではないかとすら思っています。それに、星井七億氏や「コミマのラックン」の制作サークルなど、同人誌やグッズをクラウドファンディングで作ったサークルもそれなりにあるので)。本書で分析しているオタク論客の著書には、明らかに反女性的な傾向が見られます。それをいかに位置付けるかにより、ヘイトスピーチ対策にも役立つのではないかとという算段です。

そして最後に、個々人の論客の物言いや立ち位置がどのように変化してきたかということですが、以前、2014年に行われた「第10回河上肇賞」の落選論文を基にした同人誌『劣化言説の時代』のメディアと論客(2017年夏コミで普及版発行)では、1990年代末期から2013年頃に至る香山リカ氏の著作65冊を分析しましたが、個人の論客についてそこまでやらなくとも、少なくとも2, 3冊分析することによって何らかの違いを見ることはできるのではないかと、と思います。

「言論」——言うなれば大衆言論は、アーカイブされないまま浮かんで消え、浮かんで消え、を繰り返します。一時代を築いた議論も、ちよつと時間が過ぎればもうブックオフやAmazonのマーケットプレイスなどでしか手に入らない、というのも少なくありません。例えば、「30代うつ」、後に「新型うつ(病)」となる概念を広めた、香山氏の『仕事申だけ「うつ」になる人たち』(講談社)は、そのPHP文庫版も含めていまでは古本でしか手に入らないのです。このような大衆言論を、なんとかして歴史として残したい。それが私のテキストマイニングの最大の目的です。

というわけで分析を終えた今だからこそ、改めてこう叫びたいと思います。

我が国の論壇は  
腐っている!!

# 第一部 概要

## 2. はじめに

本書は、1990年代終わりから2010年代にかけて刊行された、「日本論」「日本人論」「日本社会論」に属する書籍のテキストデータを分析し、その特徴を数値として表すものである。選定した書籍は分析者の独断によるものであり、特定の基準があるわけではないが、できるだけ多くの種類の言説を集めるよう努力した。そのため、社会や若い世代が「劣化」していると見るような言説や、逆に若い世代に希望を見出す言説、「批評」系の言説やオタク論、果ては陰謀論に至るまで、分析者の想像の思いつく範囲と作業量の及ぶ範囲で集めた。

また本書においては、前著『間違いだらけの論客選び』にはない要素として、何人かの論者に対して言説の時系列での比較を行った。これは、数年おきに出された書籍を比較することで、その論者の立ち位置の変化について検討を行うものである。

分析にはフリーのテキストマイニングソフト「KHCoder」を、また形態素解析エンジンには「MeCab」を使った。KHCoderについては、開発者の一人である樋口耕一が、『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展をめざして』（ナカニシヤ出

版、2014年）という著作を出しているので、詳しくはそちらを参照されたい。

また、分析に応じて、極力表記の揺れによる違いが分析に反映されてしまうことを避けるため、辞書のカスタマイズを行った。カスタマイズの概要を左ページに記した。

なお取得したテキストデータは、全て分析者自身が元の書籍をOCRによってテキストファイル化したものである。

# 間違いだらけの論客選び

新たに登録を行った単語

アベノミクス、ちきりん、晋三、小保方、佐村河内、橋下、イザナギ、イザナミ  
SEALDs、GHQ、在特会、NHK、NPO、SNS、ゼロ年代、ハマる

表記を統一した単語

品詞	統一先	統一対象
一般名詞	スマートフォン	スマートフォン、スマホ
一般名詞	ネット右翼	ネット右翼、ネットウヨ
一般名詞	うつ病	うつ病、鬱病
一般名詞	人々	人々、人びと
一般名詞	子供	子供、子ども、こども
一般名詞	言葉	言葉、ことば
一般名詞	親父	親父、おやじ
一般名詞	切っ掛け	切っ掛け、きっかけ
一般名詞	叔父さん	叔父さん、おじさん、オジサン
固有名詞	ニコニコ動画	ニコニコ動画、ニコ動
固有名詞	Twitter	Twitter、ツイッター
固有名詞	YouTube	YouTube、ユーチューブ
固有名詞	Facebook	Facebook、フェイスブック
サ変名詞	サバイブ	サバイブ、サヴァイブ、サヴァイヴ
名詞形容動詞語幹	普通	普通、ふつう、フツウ
名詞形容動詞語幹	間	間、あいだ
名詞形容動詞語幹	様々	様々、さまざま
名詞形容動詞語幹	馬鹿	馬鹿、バカ、莫迦
名詞副詞可能	今	今、いま
動詞	思う	思う、おもう
動詞	目指す	目指す、めざす
動詞	分かる	分かる、わかる
動詞	関わる	関わる、かかわる
動詞	引きこもる	引きこもる、ひきこもる
動詞	繋がる	繋がる、つながる
動詞	虐める	虐める、苛める、いじめる
形容詞	面白い	面白い、おもしろい
形容詞	素晴らしい	素晴らしい、すばらしい
形容詞	難しい	難しい、むずかしい
形容詞	凄い	凄い、すごい、スゴい、スゴイ (原型のみ)
形容詞	凄まじい	凄まじい、すさまじい
形容詞	厳しい	厳しい、きびしい
形容詞	物凄い	物凄い、もの凄い、ものすごい
形容詞	辛い	辛い、つらい
形容詞	酷い	酷い、ひどい
形容詞	相応しい	相応しい、ふさわしい
形容詞	可愛い	可愛い、かわいい、カワイイ (原型のみ)
副詞	本当に	本当に、ほんとうに
副詞	特に	特に、とくに
副詞	一番	一番、いちばん
副詞	嘗て	嘗て、かつて

ポピュリズム】

【2013年】

藻谷浩介『里山資本主義』/佐伯啓思『日本の宿命』/白井聡『永続敗戦論』/谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』/竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』

【2014年】

赤坂真理『愛と暴力の戦後とその後』/橋本治『バカになったか、日本人』/原田曜平『ヤンキー経済』/村上裕一『ネトウヨ化する日本』/税所篤快『ゆとり世代の愛国心』/想田和弘『熱狂なきファシズム』

【2015年】

古谷経衡『左翼も右翼もウソばかり』/百田尚樹『大放言』/佐々木俊尚『21世紀の自由論』/高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』/武田砂鉄『紋切型社会』/山崎雅弘『戦前回帰』

【2016年】

ブレイディみかこ『This is Japan』/平田オリザ『下り坂をそろそろと下る』/堀有伸『日本的ナルシズムの罪』/奥田愛基『変える』/和田秀樹『この国の冷たさの正体』

【2017年】

ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』/高村薫『作家的覚書』

【比較】

宮台真司『まぼろしの郊外』『日本の難点』『私たちはどこから来て、どこへ行くのか』

香山リカ『多重化するリアル』『なぜ日本人は劣化したか』『劣化する日本人』

斎藤環『ひきこもり文化論』『世界が土曜の夜の夢なら』

東浩紀『動物化するポストモダン』『一般意志 2.0』『ゲンロン0 観光客の哲学』

宇野常寛『ゼロ年代の想像力』『リトル・ピープルの時代』

大澤真幸『虚構の時代の果て』『不可能性の時代』

加藤典洋『敗戦後論』『戦後入門』

鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』『サブカル・ニッポンの新自由主義』『ウェブ社会のゆくえ』

山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』『希望格差社会』

柳美里『仮面の国』『国家への道順』

岡田斗司夫『ぼくたちの洗脳社会』『オタクはすでに死んでいる』

中川淳一郎『ウェブはバカと暇人のもの』『バカざんまい』

堀井憲一郎『若者殺しの時代』『やさしさをまとった殲滅の時代』

速水健朗『ケータイ小説的。』『1995年』

三浦展『下流社会』『第四の消費』

この中には、テキストデータを下記の同人誌から流用したものも含む。

『間違いだらけの論客選び——2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析』

『「ヤンキー」論の奇妙な位相——平成日本若者論史 9』

『「新しい生き方」は誰のため？——平成日本若者論史 12』

『「劣化言説の時代」のメディアと論客——平成日本若者論史 Special』

そのほか、いくつかの分析者のブログ記事。

# 間違いだらけの論客選び

分析対象の書籍

【1998年】

櫻井よしこ『日本の危機』

【1999年】

門脇厚司『子どもの社会力』 / 森嶋通夫『日本はなぜ没落するか』

【2000年】

福田和也『余は如何にしてナショナリストとなりし乎』 / 西部邁『国民の道徳』 / 尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』 / 佐藤俊樹『不平等社会日本』 / 斎藤貴男『機会不平等』 / 上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』

【2001年】

八木秀次『反「人権」宣言』

【2002年】

小原信『iモード社会の「われとわれわれ」』 / 勢古浩爾『まれに見るバカ』

【2003年】

森川嘉一郎『趣都の誕生』 / 小谷野敦『すばらしき愚民社会』

【2004年】

北田暁大『嗤う日本の「ナショナリズム」』 / パオロ・マツァリーノ『反社会学講座』 / 荷宮和子『バリバリのハト派』

【2005年】

藤原正彦『国家の品格』 / 本田透『電波男』 / 野田正彰『この社会の歪みについて』 / 柳田邦男『壊れる日本人』

【2006年】

林秀彦『この国の終わり』 / 姜尚中『愛国の作法』 / マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』

【2007年】

雨宮処凜『生きさせろ！』 / 赤木智弘『若者を見殺しにする国』 / 相原博之『キャラ化するニッポン』 / 深澤真紀『草食男子世代』

【2008年】

土井隆義『友だち地獄』 / 中谷巖『資本主義はなぜ自壊したのか』 / 水無田気流『黒山もここ、抜けたら荒野』 / 渡部昇一『決定版 日本人論』

【2009年】

兵頭新児『ぼくたちの女災社会』 / 池田整治『マインドコントロール』

【2010年】

小浜逸郎『人はひとりで生きていけるか』 / 片田珠美『一億総ガキ社会』 / 岡田憲治『言葉が足りないとサルになる』

【2011年】

ちきりん『自分のアタマで考えよう』 / 古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』 / 齋藤孝『日本人の心はなぜ強かったのか』 / 與那覇潤『中国化する日本』

【2012年】

イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』 / 熊代亨『ロスジェネ心理学』 / 松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論』 / 小熊英二『社会を変えるには』 / 橘玲『(日本人)』 / 渡邊恒雄『反』

## 2. 対応分析

各書籍の全体的な傾向を見るため、対応分析を行った。分析に用いた単語は、全体での出現数が515以上である、KH Coder上でB分類になる単語(ひらがなだけの単語)を除く自立語全900語で、全体での占有率は14・88%である。この分析では、次の8つの主成分に対して分析を行った。

### 主成分1・若者論的傾向／政治論的傾向

最も寄与率の大きい主成分は、ここ20年ほどの議論を支えてきた、政治に関する議論と若者論という対立軸となった。正の方向には、特に「オタク」「ヤンキー」「ケータイ」サブカルチャーに関する単語が並んだ。他方で負の方向には、近現代史や憲法、外交に関する単語で占められた。書籍の順位を見ても、正の方向は若者文化論系、負の方向は政治・近現代史系がはっきりと分かれる結果となっている。

### 主成分2・労働・経済言説系／オタク論系

2000年代後半から2010年代に至る若者論の中で対立していたのが、若い世代の「内面」に関する議論と、若い世代の置かれた労働・経済的状况に関する議論だった。特に2000年代終わり頃には、1975～1982年生まれの若い世代が「ロストジェネレーション(ロスジェネ)」と呼ばれ、上の世代に対して「割を食った」世代であるという言説が流行した。他方で、若い世代の「内面」を問題視する議論は、そのような労働系の議論が流行したときに、それらへの反論としてある

程度の需要があった。

書籍の得点を見ても、正の方向には格差や貧困、労働に関する議論が並んでいる。ただし、その内容は、若い世代を叩いているものも合ったりと多様である。逆に負の方向には、文化から若い世代の「内面」を探る系統の議論が並んだ。

### 主成分3・オタク論の哲学系／近年の保守論壇系

主成分3は、単語だけ見るとかなり解釈に困るものだった。というのも、正の方向には「仮面ライダー」「ケータイ」「ネットワーク」「キャラクター」、負の方向には「萌える」「オタク」などの単語が並ぶなど、どちらもオタク文化論系の単語が見られたからだ。もつとも、負の方向には政治系の単語も見られているのだが、この段階では解釈が難しかった。

しかし、書籍のランキングを見るとこの主成分の傾向がはっきりする。負の方向には、本田透『電波男』や勢古浩爾『まれに見るバカ』、兵頭新児『ぼくたちの女災社会』などといった、女性を中心に自分と異なる社会集団をバッシングする書籍と、ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』や竹田恒泰、渡部昇一といった保守論壇の人物が並立された。加藤典洋や白井聡などの例外はあるが、この方向は、近年のヘイトスピーチを支えている保守論壇、ないしネット上の保守言説(所謂「ネット右翼」)的な傾向と行うことができるだろう。なお正方向は主成分2の正方向とあまり変わらなかった。

### 主成分4・若者論の政治系／生き方系

主成分4も、単語だけでは判断に困る主成分であった。どちらの方向

# 間違いだらけの論客選び **改**

対応分析の主成分の寄与率

主成分	固有値	固有値 <sup>2</sup>	寄与率	累積寄与率
1	0.3949	0.1559	7.26%	7.26%
2	0.3650	0.1333	6.21%	13.47%
3	0.3210	0.1031	4.80%	18.27%
4	0.2878	0.0828	3.86%	22.13%
5	0.2629	0.0691	3.22%	25.35%
6	0.2484	0.0617	2.87%	28.22%
7	0.2442	0.0596	2.78%	31.00%
8	0.2395	0.0574	2.67%	33.68%

にも若者論関係の単語が多く見られ、若者論の中での対立と言うべきものを指しているらしいことはわかる。

書籍を見ると、正の方向には劣化言説に親和的なもの、負の方向には格差（ただ、貧困を取り扱っているものは少なさそう）を取り扱ったものが多かった。そのため、この主成分は、若者論の中での、政治・社会系と格差・生き方系の議論を区別するための主成分と言えるだろう。

## 主成分5・成熟論系 オタク論系

主成分5は、先の主成分3や4のように両方に共通する性質の単語が入っているわけではなく、正の方向には哲学系の単語、負の方向には文化論系の単語が並んでいる。

ただ書籍を見ると、若者論の中での対立と言うべきものになっている。正の方向には東浩紀や大澤真幸などの成熟論系のオタク論が、種々の若者バッシング言説と並立された。他方で負の方向には、概ねそのような哲学的な議論をあまり含まない文化論が並んでいる。

## 主成分6・決断主義系／引きこもり系

宇野常寛のような対立軸を作ってしまったことは謝罪したい。ただ、この主成分の内容を見ると、本当にそのように書くのがもつとも適切ではないかと思つた次第である。

単語からは判断が難しいので、書籍を見ると、正の方向には、近年の「若手論客」による政治・社会系の議論や社会運動系のが並ぶ。特に谷本真由美やイケダハヤトなどの議論は、上の世代を旧世代として見なし、そのような価値観からの脱却を訴えるものが多いため、優れて「決断主義」的である。そしてこの概念を先導した、宇野常寛の著作もこの中に入り込んでいる。

他方で負の方向には、ほとんどが2000年代の議論で、劣化言説も多い。そのためこれらの議論は、宇野常寛の概念を借りるなら「引きこもり系」というkになるのかもしれない。

## 主成分7・宮台社会学系？／マーケティング社会学系

単語からの判断は難しいが、書籍から判断すると、この主成分は、言うなれば社会学的な議論の対立と言うことができるだろう。正の宝庫には佐藤俊樹のような例外はあるが、概ね特定の社会集団を指してバッシングするようなものが目立つ。このような手法は、宮台真司のフォロワーの手法に似ているため、強いて名前をつけるなら「宮台社会学系」ということになるかもしれない（ただし宮台自身のこの主成分の得点の絶対値は高くないが）。他方で負の方向には、や、またそれに影響を与えた斎藤環や速水健朗の議論が並立されている。また相原博之もマーケティング系であることから、社会学の中でもマーケティング系の議論を指す

主成分と言えるだろう。

### 主成分8・劣化言説系へサブカルチャー論系

負の方向は、サブカルチャー論系と格差論系の単語が並んでいるが、正の方向については全体として傾向が散漫である。そのため書籍から正の方向を判断すると、若者論、特に若い世代を問題視する言説が並んだ。そのためこの主成分の正の方向は劣化言説系と見なして問題はないだろう。

# 間違いだらけの論客選び

せっかくだから第3主成分の負の方向の順位を並べてみた。(上位40冊)

1	本田透『電波男』	-5.09443
2	岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	-2.69886
3	勢古浩爾『まれに見るバカ』	-2.29898
4	ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』	-1.47518
5	竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	-1.46987
6	加藤典洋『戦後入門』	-1.45165
7	渡部昇一『決定版 日本人論』	-1.09814
8	橋本治『バカになったか、日本人』	-1.06806
9	白井聡『永続敗戦論』	-1.05572
10	兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	-1.04651
11	山崎雅弘『戦前回帰』	-1.04224
12	深澤真紀『草食男子世代』	-1.03050
13	荷宮和子『バリバリのハト派』	-0.99173
14	中川淳一郎『バカざんまい』	-0.94848
15	佐伯啓思『日本の宿命』	-0.91500
16	百田尚樹『大放言』	-0.88661
17	池田整治『マインドコントロール』	-0.86457
18	柳美里『国家への道順』	-0.83713
19	與那覇潤『中国化する日本』	-0.83216
20	藤原正彦『国家の品格』	-0.76631
21	赤坂真理『愛と暴力の戦後とその後』	-0.72754
22	林秀彦『この国の終わり』	-0.68977
23	奥田愛基『変える』	-0.63123
24	渡邊恒雄『反ポピュリズム』	-0.56919
25	加藤典洋『敗戦後論』	-0.54693
26	古谷経衡『左翼も右翼もウソばかり』	-0.53147
27	想田和弘『熱狂なきファシズム』	-0.51931
28	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	-0.44282
29	森川嘉一郎『趣都の誕生』	-0.43527
30	小谷野敦『すばらしき愚民社会』	-0.41404
31	谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』	-0.39298
32	高村薫『作家的覚書』	-0.38883
33	福田和也『余は如何にしてナショナリストとなりし乎』	-0.37792
34	森嶋通夫『日本はなぜ没落するか』	-0.37663
35	高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』	-0.34271
36	税所篤快『ゆとり世代の愛国心』	-0.33076
37	姜尚中『愛国の作法』	-0.32369
38	櫻井よしこ『日本の危機』	-0.29213
39	柳美里『仮面の国』	-0.28407
40	岡田憲治『言葉が足りないとサルになる』	-0.27747

《劣化言説の時代》と《ポスト劣化言説の時代》の比較研究  
月刊テキストマイニングレポート Vol.8 2017年12月31日号 (特別編)

主成分5 帯与率	主成分6 帯与率			主成分7 帯与率			主成分8 帯与率																
	3.22% 累積帯与率			25.35% 帯与率			2.87% 累積帯与率			28.22% 帯与率			2.78% 累積帯与率			31.00% 帯与率			2.67% 累積帯与率				
	正方向			負方向			正方向			負方向			正方向			負方向			正方向			負方向	
単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点
1 1カ	17.864	-8.6649	仮面ライダー	6.5706	男子	-10.1434	バカ	16.6332	ヤンキー	15.2923	男子	12.7450	ヤンキー	-14.9688									
2 憲志	3.2381	-7.3907	デモ	3.7195	ヤンキー	-8.4142	キャラ	9.1748	キャラ	-5.6824	憲志	2.1690	バカ	-13.5547									
3 女	3.0212	-4.7439	原簿	3.3437	原簿	-5.0136	仮面ライダー	8.0856	音楽	-2.5568	大人	2.1645	階層	-5.7908									
4 穂光	2.5814	-3.9237	政党	3.2231	条約	-3.7054	団塊	5.1775	ケータイ	-2.4893	患者	2.0233	仮面ライダー	-4.4665									
5 穂利	2.3653	-3.8327	サイト	3.2127	友達	-3.5688	階層	4.4827	明る	-2.4094	相互	1.9853	団塊	-4.0773									
6 他人	2.3561	-3.3239	ネットワーク	3.0529	核	-3.3229	上	4.1051	地元	-2.3177	他者	1.8660	上	-3.9391									
7 男	2.1877	-2.7763	キャラクター	2.8257	米国	-3.2810	態	3.1396	教師	-2.2128	心	1.7327	職業	-3.2345									
8 他者	2.0681	-2.5765	ネット	2.8200	女子	-3.0232	物語	2.8060	患者	-2.0966	恋愛	1.7039	収入	-3.1049									
9 人権	2.0233	-2.5314	ニュース	2.7239	教師	-2.9284	正義	2.7188	オタク	-1.9875	人びと	1.6783	地元	-2.9309									
10 愛	1.9079	-2.4906	物語	2.7079	取組	-2.9206	ネットワーク	2.5873	オタク	-1.7128	子育て	1.5753	志向	-2.8650									
11 子	1.8748	-2.4630	グローバル	2.6936	ケータイ	-2.9201	女子	2.3811	生徒	-1.7111	人権	1.5526	主婦	-2.7018									
12 哲学	1.8664	-2.4624	選挙	2.6350	結婚	-2.8850	決断	2.3379	喪失	-1.6241	オウム	1.5324	原簿	-2.6903									
13 教師	1.8309	-2.4528	決断	2.5834	子育て	-2.8067	下	2.3180	漫画	-1.6170	友達	1.4879	所得	-2.6302									
14 道徳	1.7706	-2.3975	覚	2.4676	米	-2.7776	世代	2.2790	授業	-1.5735	相手	1.4744	格差	-2.6029									
15 法	1.7615	-2.3182	観光	2.4066	占領	-2.6698	所得	2.1956	階層	-1.5271	喪失	1.4731	フリーター	-2.5173									
16 客	1.6538	-2.2632	壁	2.3259	女子高	-2.6510	壁	2.1203	先生	-1.5265	パソコン	1.4550	小説	-2.4864									
17 相互	1.6430	-2.2596	自民党	2.2594	男女	-2.6422	原簿	2.0713	印象	-1.4494	発達	1.4545	リスク	-2.4862									
18 動物	1.6126	-2.2112	正義	2.2283	宣言	-2.6060	組織	2.0087	母親	-1.4481	大事	1.4194	結婚	-2.4475									
19 物	1.6068	-2.1281	主義	2.2135	人権	-2.5805	男性	1.9887	心	-1.3765	女子	1.4165	漫画	-2.3922									
20 欲望	1.5580	-2.0995	江戸	2.1307	権利	-2.4440	主婦	1.8766	人権	-1.2760	子モ	1.3747	下	-2.3023									
21 喪失	1.4967	-2.0608	国会	2.1000	階層	-2.1714	結婚	1.8732	小学校	-1.2755	授業	1.3706	上昇	-2.1837									
22 監視	1.4859	-1.9968	アニメ	2.0987	親	-2.1658	父	1.8616	愛	-1.2656	母親	1.3470	キャラクター	-2.1305									
23 言語	1.4717	-1.9133	商品	2.0830	男性	-2.1534	設定	1.8211	発達	-1.2629	明る	1.3463	引用	-2.0543									
24 理論	1.4529	-1.8993	投票	2.0456	相互	-2.1227	職業	1.8183	仲間	-1.2161	生き方	1.3369	希望	-2.0209									
25 虚構	1.4485	-1.8334	消費	1.9682	喪失	-2.1198	上昇	1.7869	医療	-1.2104	観光	1.3055	キャラ	-2.0200									
26 頭	1.4376	-1.8268	事故	1.9667	オウム	-2.1107	格差	1.7520	学校	-1.2034	空間	1.2784	音楽	-1.9804									
27 人ひと	1.3952	-1.8255	株	1.9200	天皇	-2.0679	主八公	1.6878	文化	-1.2003	言葉	1.2734	父	-1.9704									
28 文章	1.3909	-1.8025	ポスト	1.8638	理想	-2.0543	ポスト	1.6665	検討	-1.1991	映像	1.2725	男性	-1.9431									
29 超越	1.3884	-1.7231	巨大	1.8582	女性	-2.0530	教材	1.6535	引用	-1.1867	監視	1.2624	物語	-1.7759									
30 オウム	1.3784	-1.6642	記者	1.8564	法	-2.0413	記述	1.6095	朝鮮	-1.1698	行為	1.2255	努力	-1.7066									

# 間違いだらけの論客選び

主成分1 寄与率	7.26% 業績寄与率			7.26% 寄与率			主成分2			主成分3			主成分4			3.86% 業績寄与率	22.13%
	負方向			正方向			負方向			正方向			負方向				
	単語	得点	単語	単語	得点	単語	単語	得点	単語	単語	得点	単語	単語	得点	単語		
1 萌える	5.7426	原爆	-4.4416	フリーター	-6.8143	仮面ライダー	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
2 恋愛	5.2098	条約	-3.6912	収入	-5.8603	虚構	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
3 男子	4.8472	占領	-3.5495	派遣	-5.1294	超絶	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
4 オタク	4.2829	米国	-3.5096	正社員	-4.8028	監視	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
5 キャラ	4.2659	米	-3.3823	階層	-4.3305	リズム	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
6 友達	4.0576	車事	-3.3750	賃金	-4.3373	オウム	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
7 男	3.3753	歌載	-3.1159	お金	-4.2417	ケータイ	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
8 愛	3.1705	憲法	-2.9701	上	-2.9701	上	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
9 バカ	2.8928	日	-2.9604	働く	-2.9604	働く	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
10 友達	2.8695	天皇	-2.9058	年金	-2.9058	愛	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
11 女の子	2.7268	大戦	-2.7694	社員	-2.7694	主人公	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
12 ヤンキー	2.6975	国際	-2.7348	就職	-2.7348	決断	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
13 女子	2.6797	核	-2.6826	職業	-2.6826	アニメ	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
14 女子高	2.6039	戦前	-2.6696	団塊	-2.6696	設定	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
15 ケータイ	2.5887	平和	-2.5692	子育て	-2.5692	子育て	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
16 アニメ	2.5042	中国	-2.5004	主婦	-2.5004	オウム	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
17 趣味	2.4820	理念	-2.4188	保険	-2.4188	作品	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
18 プア	2.3425	戦争	-2.2934	格差	-2.2934	正義	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
19 結婚	2.3284	大統領	-2.2417	高齢	-2.2417	記述	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
20 マンガ	2.2950	宣言	-2.2295	労働	-2.2295	小説	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
21 少女	2.2727	勢力	-2.2156	所得	-2.2156	ポスト	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
22 男性	2.2299	放棄	-2.1496	仕事	-2.1496	仕事	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
23 愛国	2.1863	ドイツ	-2.1361	減る	-2.1361	減る	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
24 団塊	2.1758	国民	-2.1361	減る	-2.1361	減る	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
25 キャラクター	2.1273	沖縄	-2.1287	リスク	-2.1287	リスク	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
26 金	2.1116	文明	-2.1276	勉強	-2.1276	勉強	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
27 女性	2.0019	国家	-2.1191	雇用	-2.1191	雇用	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
28 階層	1.9729	戦後	-2.1103	親	-2.1103	親	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
29 地元	1.9227	故障	-2.0327	将来	-2.0327	将来	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%
30 子育て	1.8844	安倍	-2.0235	子宅	-2.0235	子宅	6.21% 業績寄与率	13.47%	13.47%	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	18.27%	寄与率	3.86% 業績寄与率	22.13%

〈劣化言説の時代〉と〈ポスト劣化言説の時代〉の比較研究  
月刊テキストマイニングレポート Vol.8 2017年12月31日号 (特別編)

主成分5

深澤真紀『草食男子世代』	-3.3964	勢古浩爾『まれに見るバカ』	7.6071
原田曜平『 Yankee 経済』	-2.6581	八木秀次『反「人権」宣言』	1.4301
斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	-1.9416	東浩紀『一般意志2.0』	1.4161
相原博之『キャラ化するニッポン』	-1.8928	中川淳一郎『バカごんまい』	1.3871
三浦展『下流社会』	-1.5526	大澤真幸『虚構の時代の果て』	1.1381
速水健朗『ケータイ小説的。』	-1.5210	東浩紀『ゲンロン0 観光客の哲学』	1.0956
松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論』	-1.4288	門脇厚司『子どもの社会力』	1.0930
森川嘉一郎『趣都の誕生』	-1.4039	片田珠美『一億総ガキ社会』	1.0076
速水健朗『1995年』	-1.0875	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	0.9033
加藤典洋『戦後入門』	-1.0561	小原信『iモード社会の「われとわれわれ」』	0.8948

主成分6

深澤真紀『草食男子世代』	-3.6633	中川淳一郎『ウェブはバカと暇人のもの』	2.2062
斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	-2.6198	橋本治『バカになったか、日本人』	1.9074
八木秀次『反「人権」宣言』	-2.2405	宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	1.7507
加藤典洋『戦後入門』	-2.0007	奥田愛基『変える』	1.4985
尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	-1.8663	渡邊恒雄『反ポピュリズム』	1.3108
兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	-1.5989	イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』	1.2999
片田珠美『一億総ガキ社会』	-1.4986	森川嘉一郎『趣都の誕生』	1.2857
大澤真幸『虚構の時代の果て』	-1.4399	東浩紀『動物化するポストモダン』	1.2718
原田曜平『 Yankee 経済』	-1.3866	藻谷浩介『里山資本主義』	1.2419
白井聡『永続敗戦論』	-1.3584	谷本貴由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』	1.1932

主成分7

斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	-4.8483	深澤真紀『草食男子世代』	6.1102
原田曜平『 Yankee 経済』	-1.9755	勢古浩爾『まれに見るバカ』	3.7138
速水健朗『ケータイ小説的。』	-1.5996	三浦展『下流社会』	2.5679
相原博之『キャラ化するニッポン』	-1.5124	宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	2.1134
尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	-1.1299	佐藤俊樹『不平等社会日本』	1.2515
柳田邦男『壊れる日本人』	-1.0602	宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	1.2512
門脇厚司『子どもの社会力』	-0.9867	兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	1.0666
岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	-0.9867	山田昌弘『希望格差社会』	0.8372
片田珠美『一億総ガキ社会』	-0.8701	山田昌弘『バラサイト・シングルの時代』	0.8359
本田透『電波男』	-0.8681	加藤典洋『戦後入門』	0.7805

主成分8

勢古浩爾『まれに見るバカ』	-5.3389	深澤真紀『草食男子世代』	4.6265
斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	-4.4667	門脇厚司『子どもの社会力』	1.3254
三浦展『下流社会』	-2.8099	小原信『iモード社会の「われとわれわれ」』	1.2726
原田曜平『 Yankee 経済』	-2.4247	鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	1.1328
速水健朗『ケータイ小説的。』	-1.8096	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	1.1026
山田昌弘『希望格差社会』	-1.6836	東浩紀『一般意志2.0』	0.9930
山田昌弘『バラサイト・シングルの時代』	-1.5960	奥田愛基『変える』	0.9632
佐藤俊樹『不平等社会日本』	-1.4946	柳田邦男『壊れる日本人』	0.9426
宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	-1.1504	片田珠美『一億総ガキ社会』	0.8351
加藤典洋『戦後入門』	-0.9754	齋藤孝『日本人の心はなぜ強かったのか』	0.8115

# 間違いだらけの論客選び

## 主成分1

加藤典洋『戦後入門』	-2.4163	本田透『電波男』	3.1190
白井聡『永続敗戦論』	-2.1100	深澤真紀『草食男子世代』	2.5787
山崎雅弘『戦前回想』	-1.9656	岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	2.2419
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	-1.9251	原田曜平『ヤンキー経済』	1.6674
佐伯啓思『日本の宿命』	-1.6573	兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	1.6618
ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』	-1.6391	相原博之『キャラ化するニッポン』	1.6301
姜尚中『愛国の作法』	-1.4309	三浦展『下流社会』	1.6076
與那覇潤『中国化する日本』	-1.2340	勢古浩爾『まれに見るバカ』	1.5920
渡邊恒雄『反ポピュリズム』	-1.1844	速水健朗『ケータイ小説的。』	1.4522
西部邁『国民の道徳』	-1.1081	松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論』	1.3533

## 主成分2

本田透『電波男』	-2.7496	三浦展『下流社会』	1.8994
東浩紀『動物化するポストモダン』	-2.6855	雨宮処凛『生きさせろ!』	1.8811
宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	-2.5717	山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』	1.8505
宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	-2.2023	山田昌弘『希望格差社会』	1.7522
相原博之『キャラ化するニッポン』	-2.0456	マックス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』	1.4883
大澤真幸『虚構の時代の果て』	-1.9048	谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』	1.3956
岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	-1.6996	ブレイディみかこ『This is Japan』	1.2072
大澤真幸『不可能性の時代』	-1.5472	イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』	1.1613
森川嘉一郎『趣都の誕生』	-1.5362	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』	1.1437
北田暁大『嘆う日本の「ナショナリズム」』	-1.3506	バオロ・マツァリアーノ『反社会学講座』	1.1376

## 主成分3

本田透『電波男』	-5.0944	宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	1.6388
岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	-2.6989	鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』	1.6087
勢古浩爾『まれに見るバカ』	-2.2990	大澤真幸『虚構の時代の果て』	1.5073
ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』	-1.4752	鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	1.4096
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	-1.4699	山田昌弘『希望格差社会』	1.3946
加藤典洋『戦後入門』	-1.4517	土井隆義『友だち地獄』	1.3653
渡部昇一『決定版 日本人論』	-1.0981	宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	1.3522
橋本治『バカになったか、日本人』	-1.0681	北田暁大『嘆う日本の「ナショナリズム」』	1.1004
白井聡『永続敗戦論』	-1.0557	斎藤環『ひきこもり文化論』	1.0692
兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	-1.0465	東浩紀『一般意志2.0』	1.0538

## 主成分4

本田透『電波男』	-3.4634	勢古浩爾『まれに見るバカ』	3.4053
山田昌弘『希望格差社会』	-2.5838	深澤真紀『草食男子世代』	2.4794
佐藤俊樹『不平等社会日本』	-2.0329	中川淳一郎『ウェブはバカと暇人のもの』	2.0542
三浦展『下流社会』	-2.0279	中川淳一郎『バカごんまい』	1.9893
山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』	-1.9134	速水健朗『ケータイ小説的。』	1.8910
中谷蔵『資本主義はなぜ自壊したのか』	-1.8584	百田尚樹『大放言』	1.5771
岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	-1.2534	斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	1.5569
鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義』	-1.0138	奥田愛基『変える』	1.4509
橋本治『日本人』	-0.9676	柳美里『国家への道順』	1.2893
東浩紀『動物化するポストモダン』	-0.9594	柳美里『仮面の国』	1.1981

### 3・カテゴリー別単語の集計

ここでは、抽出された単語の内、上位300単語（出現数1, 235以上）について、段落を集計基準とした多次元尺度構成法を用いることにより、近い性質を持った単語を集めて、それぞれのカテゴリーに属する単語の使用頻度を調べた。左の表にその単語を示す。また左下は単語の使用頻度の相関係数である。

#### カテゴリー1…評論としての傾向？

カテゴリー1には、評論で使われがちな言葉が多く並んだ。ただしこれらの単語は全体として使用頻度が高いため、分析の際に重視すべき指標ではないと思われる。

#### カテゴリー2…思想

「政治」「国家」「国民」などの単語が属しているため、政治に関する単語の使用率かと思われるが、他にも「世紀」「立場」「技術」「戦争」「批判」などの言葉が並び、一概に政治に関する単語の集合とは言いにくい。むしろ、政治哲学を中心とする、思想に関する言葉として見た方がよいのではないか。

#### カテゴリー3…世代論、女性論

「子供」「若者」「女性」「世代」という単語が並んでいるため、ほぼ子供論、若者論、女性論に関する指標とみていいだろう。

#### カテゴリー4…経済・労働

経済や労働の話題は、2000年代の最も重要な議論の一つであり、本書で採り上げた書籍もそれを扱ったものが多かった。

#### カテゴリー5…精神・感覚

このカテゴリーには、現代人の精神や感性に関する議論に使われがちな単語が並んでいる。特に精神分析に基づいた若者論に多く見られそう。

#### カテゴリー6…ライフコース・行き方

こちらのカテゴリーは、大学や会社、仕事、結婚などといった、生き方についての議論と言える。ただし生き方と言っても、自己啓発的なそれではなく、むしろ格差論の社会学で取り扱われるような、ライフコースに関するものと言えるだろう。

#### カテゴリー7…オタク論的傾向

いきなり「オタク」が入っているほか、「メディア」「キャラクター」「イメーজ」などといった、2000年代の「批評」系の議論に使われた単語が属しているため、オタク論としての性質の強さの指標として使うことができるだろう。

#### カテゴリー8…政治・外交

カテゴリー2を、政治に関する議論としての指標と見るのは難しいと書いたが、こちらのカテゴリーでは、「政治」という言葉が直接使われていなくても、「政府」「制度」「政策」「選挙」はもちろんのこと、行政や国

# 間違いだらけの論客選び

カテゴリ	単語	意味
1	社会,自分,世界,人間,時代,言葉,現実,自己,人々,情報,状況,事件,理由,自身,一般,能力,関係,意味,存在,生活,意識,必要,間,可能,様々,問題,今,前,多く,場合,結果,いま,すべて,言う,思う,考える,見る,持つ,分かる,書く,知る,出る,生きる,呼ぶ,見える,言える,生まれる,与える,得る,求める,多い,強い,実際,人,他	評論としての傾向
2	主義,政治,国家,国民,文化,個人,歴史,価値,近代,思想,システム,構造,世紀,集団,立場,基本,学者,技術,戦争,批判,共同,主張,議論,代表,実現,自由,明らか,戦後,事実,述べる,終わる,失う,認める,立つ,新しい,力,先,形	思想
3	子供,若者,女性,世代,家族,最初,話,経験,時間,使う,感じる,違う,目,手	世代論・女性論
4	経済,日本人,企業,一つ,責任,地域,状態,中心,環境,格差,地方,教育,労働,活動,成長,研究,影響,雇用,日本,アメリカ,現在,当時,全体,以降,その後,受ける,行う,作る,変わる,起こる,起きる,大きい,特に,当然,国	経済・労働
5	精神,現代,他者,感覚,空間,本書,内容,自体,感情,現象,理解,行動,行為,表現,説明,指摘,想像,分析,重要,自ら,示す,異なる,同時に,極めて,逆,例	精神・感覚
6	学校,大学,会社,学生,お金,家庭,専門,仕事,調査,結婚,普通,東京,行く,入る,働く,聞く,増える,出す,来る,買う,高い,悪い,少ない,若い,良い,本当に,少し,親,家,声	ライフコース、生き方
7	オタク,物語,作品,メディア,対象,コミュニケーション,ゲーム,身体,小説,日常,暴力,傾向,キャラクター,部分,消費,変化,登場,イメージ,評価,ひとつ,語る,描く,別	オタク論的傾向
8	政府,制度,資本,市場,国際,政策,政権,原発,知識,考え方,運動,参加,選挙,組織,中国,韓国,一部,変える,守る,進む,続く	政治・外交
9	男性,場所,人生,バカ,母親,先生,電話,好き,選ぶ,男,女,子	愚痴としての傾向
10	憲法,民主,天皇,市民,権力,権利,体制,革命,支配,平和,米,米国	統治・憲法
11	相手,テレビ,ネット,映画,大人,少年,犯罪,最後,恋愛,読む,死ぬ,取る,本,心,姿	メディア文化
12	宗教,理想,目的,前提,論理,科学,未来,具体,否定,機能,選択,判断,発言,認識,自然,絶対,信じる,次,神	哲学

カテゴリ別単語の使用率の相関係数（相関係数0.3以上は強調、-0.3以下は下線）

	カテゴリ1	カテゴリ2	カテゴリ3	カテゴリ4	カテゴリ5	カテゴリ6	カテゴリ7	カテゴリ8	カテゴリ9	カテゴリ10	カテゴリ11	カテゴリ12
* カテゴリ1 (評論としての傾向)	1.0000	0.2945	0.3408	0.1700	0.5534	0.1851	0.3206	0.0617	-0.0203	0.0357	0.2297	0.3500
* カテゴリ2 (思想)	0.2945	1.0000	-0.4025	0.5088	0.5150	-0.4786	0.0946	0.5881	-0.4619	0.7512	-0.2471	0.7207
* カテゴリ3 (世代論・女性論)	0.3408	-0.4025	1.0000	-0.1326	-0.0419	0.6621	0.0326	-0.3259	0.4722	-0.3799	0.2083	-0.2764
* カテゴリ4 (経済・労働)	0.1700	0.5088	-0.1326	1.0000	0.0581	0.0933	-0.2942	0.7036	-0.3949	0.4988	-0.3570	0.2357
* カテゴリ5 (精神・感覚)	0.5534	0.5150	-0.0419	0.0581	1.0000	-0.3984	0.5170	0.0264	-0.1647	0.1914	0.2019	0.6609
* カテゴリ6 (生き方)	0.1851	-0.4786	0.6621	0.0933	-0.3984	1.0000	-0.2623	-0.1870	0.3138	-0.4105	-0.0123	-0.4641
* カテゴリ7 (オタク論的傾向)	0.3206	0.0946	0.0326	-0.2942	0.5170	-0.2623	1.0000	-0.2872	0.0339	-0.2394	0.2586	0.1406
* カテゴリ8 (政治・外交)	0.0617	0.5881	-0.3259	0.7036	0.0264	-0.1870	-0.2872	1.0000	-0.4019	0.6313	-0.2904	0.2877
* カテゴリ9 (愚痴としての傾向)	-0.0203	-0.4619	0.4722	-0.3949	-0.1647	0.3138	0.0339	-0.4019	1.0000	-0.3982	0.4104	-0.3694
* カテゴリ10 (統治・憲法)	0.0357	0.7512	-0.3799	0.4988	0.1914	-0.4105	-0.2394	0.6313	-0.3982	1.0000	-0.2126	0.5342
* カテゴリ11 (メディア文化)	0.2297	-0.2471	0.2083	-0.3570	0.2019	-0.0123	0.2586	-0.2904	0.4104	-0.2126	1.0000	-0.0775
* カテゴリ12 (哲学)	0.3500	0.7207	-0.2764	0.2357	0.6609	-0.4641	0.1406	0.2877	-0.3694	0.5342	-0.0775	1.0000

会の外からの政治参加である「運動」「参加」なども入っているため、こちらを政治に関する議論としての強さの指標として使うのが妥当だと思われる。

### カテゴリ9…愚痴としての傾向

何より「バカ」が入っているためこう名付けた。ちなみに「女性」はカテゴリ3で「女」はカテゴリ9だが、「男」も「男性」もカテゴリ9なのが興味深い。

### カテゴリ10…統治・憲法

カテゴリ8に次ぐ第二の政治系カテゴリとみられるが、こちらは「天皇」「憲法」「権力」などといった国家のあり方に関する単語が多い。

### カテゴリ11…メディア文化

こちらのカテゴリには、「テレビ」「ネット」という単語のほか、「犯罪」というものも含まれており、メディア文化、あるいはインターネットやテレビなどによって子供がおかしくなつて様々な事件を起こす、というメディア悪影響論的傾向を示す指標と見ることができらるだろう。

### カテゴリ12…哲学

このカテゴリは名付けを迷ったが、「宗教」「科学」「未来」「自然」などといった、思想や政治・社会よりもより大きな枠組みを取り扱った言葉が多いことから、便宜上「哲学」と名付けた。

# 間違いだらけの論客選び 改

〈劣化言説の時代〉と〈ポスト劣化言説の時代〉の比較研究  
月刊テキストマイニングレポート Vol.8 2017年12月31日号 (特別編)

\* カテゴリ5 (精神・感覚)

鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	32.47%	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	3.34%
土井隆義『友だち地獄』	29.70%	奥田愛基『変える』	3.78%
東浩紀『動物化するポストモダン』	29.07%	深澤真紀『草食男子世代』	4.04%
堀有伸『日本のナルシズムの罪』	28.98%	堀井憲一郎『やさしさをまとった滅滅の時代』	4.36%
門脇厚司『子どもの社会力』	28.52%	勢古浩爾『まれに見るバカ』	4.90%
大澤真幸『虚構の時代の果て』	28.15%	雨宮処凛『生きさせろ!』	4.91%
鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』	26.93%	税所篤快『ゆとり世代の愛国心』	4.91%
北田暁大『嘘う日本の「ナショナリズム」』	26.39%	藻谷浩介『里山資本主義』	5.02%
東浩紀『一般意志2.0』	26.08%	橋本治『バカになったか、日本人』	5.13%
山崎雅弘『戦前帰郷』	25.18%	百田尚樹『大放言』	5.27%

\* カテゴリ6 (生き方)

山田昌弘『バラサイト・シングルの時代』	46.21%	姜尚中『愛国の作法』	4.27%
マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』	43.56%	大澤真幸『虚構の時代の果て』	4.81%
谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』	38.77%	宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	5.05%
イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』	36.66%	東浩紀『動物化するポストモダン』	5.94%
三浦展『下流社会』	33.89%	東浩紀『ゲンロン0 観光客の哲学』	6.04%
山田昌弘『希望格差社会』	31.88%	林秀彦『この国の終わり』	6.09%
上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』	31.67%	宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	6.66%
尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	29.39%	東浩紀『一般意志2.0』	6.69%
原田曜平『ヤンキー経済』	29.23%	加藤典洋『戦後入門』	6.98%
雨宮処凛『生きさせろ!』	29.12%	大澤真幸『不可能性の時代』	7.16%

\* カテゴリ7 (オタク論的傾向)

東浩紀『動物化するポストモダン』	55.02%	藤原正彦『国家の品格』	2.43%
宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	45.85%	森嶋通夫『日本はなぜ没落するか』	3.16%
相原博之『キャラ化するニッポン』	40.44%	税所篤快『ゆとり世代の愛国心』	3.21%
宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	40.38%	橋本治『バカになったか、日本人』	3.37%
岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	35.74%	雨宮処凛『生きさせろ!』	3.40%
速水健朗『ケータイ小説的。』	33.94%	渡部昇一『決定版 日本人論』	3.58%
森川嘉一郎『藤都の誕生』	29.60%	藻谷浩介『里山資本主義』	4.02%
鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	27.07%	佐伯啓思『日本の宿命』	4.04%
北田暁大『嘘う日本の「ナショナリズム」』	26.39%	竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	4.14%
三浦展『第四の消費』	23.62%	奥田愛基『変える』	4.32%

\* カテゴリ8 (政治・外交)

ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』	37.79%	勢古浩爾『まれに見るバカ』	2.02%
與那覇潤『中国化する日本』	37.28%	斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	2.20%
小熊英二『社会を変えるには』	28.58%	斎藤孝『日本人の心はなぜ強かったのか』	2.22%
中谷蔵『資本主義はなぜ自壊したのか』	25.32%	小原信『モード社会の「われとわれわれ」』	2.44%
山崎雅弘『戦前帰郷』	25.23%	速水健朗『ケータイ小説的。』	2.73%
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	24.83%	松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論』	2.76%
古谷経衡『左翼も右翼もウンばかり』	23.04%	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	2.90%
加藤典洋『戦後入門』	22.95%	原田曜平『ヤンキー経済』	2.99%
渡邊恒雄『反ポピュリズム』	22.65%	兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	3.03%
橋本治『バカになったか、日本人』	19.70%	片田珠美『一億総ガキ社会』	3.06%

# 間違いだらけの論客選び

## \* カテゴリ1 (評論としての傾向)

鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』	76.64%	櫻井よしこ『日本の危機』	38.27%
熊代亨『ロスジェネ心理学』	74.08%	勢古浩爾『まれに見るバカ』	38.79%
鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	73.68%	祝所篤快『ゆとり世代の愛国心』	39.24%
鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義』	71.85%	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	39.39%
土井隆義『友だち地獄』	70.25%	バオロ・マツツァリーノ『反社会学講座』	40.11%
マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』	69.33%	藻谷浩介『重山資本主義』	41.15%
小原信『モード社会の「われとわれわれ」』	69.07%	森川嘉一郎『藤都の誕生』	41.64%
門脇厚司『子どもの社会力』	69.03%	佐伯啓思『日本の宿命』	41.84%
小浜逸郎『人はひとりで生きていけるか』	68.52%	本田透『電波男』	41.96%
香山リカ『劣化する日本人』	67.82%	速水健朗『1995年』	44.33%

## \* カテゴリ2 (思想)

山崎雅弘『戦前帰郷』	61.13%	深澤真紀『草食男子世代』	7.36%
姜尚中『愛国の作法』	51.98%	原田曜平『ヤンキー経済』	7.59%
鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義』	47.51%	中川淳一郎『バカざんまい』	8.66%
白井聡『永続敗戦論』	47.41%	雨宮処凛『生きさせろ!』	8.78%
西部邁『国民の道徳』	46.25%	勢古浩爾『まれに見るバカ』	9.13%
與那覇潤『中国化する日本』	46.11%	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	9.74%
加藤典洋『戦後入門』	44.74%	祝所篤快『ゆとり世代の愛国心』	9.95%
東浩紀『一般意志2.0』	44.41%	中川淳一郎『ウェブはバカと暇人のもの』	10.32%
佐々木俊尚『21世紀の自由論』	44.30%	堀井憲一郎『やさしさをまとった滅亡の時代』	10.53%
八木秀次『反「人権」宣言』	43.58%	三浦展『下流社会』	11.28%

## \* カテゴリ3 (世代論・女性論)

山田昌弘『バラサイト・シングルの時代』	31.28%	白井聡『永続敗戦論』	2.69%
マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』	30.17%	佐伯啓思『日本の宿命』	4.51%
尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	29.51%	東浩紀『一般意志2.0』	5.03%
兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	28.79%	宇野常寛『リトル・ビーブルの時代』	5.76%
熊代亨『ロスジェネ心理学』	28.60%	姜尚中『愛国の作法』	5.85%
門脇厚司『子どもの社会力』	28.27%	藤原正彦『国家の品格』	6.41%
三浦展『下流社会』	27.62%	渡邊恒雄『反ポピュリズム』	6.42%
八木秀次『反「人権」宣言』	27.43%	山崎雅弘『戦前帰郷』	6.49%
古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』	26.00%	佐々木俊尚『21世紀の自由論』	6.51%
水無田気流『黒山もここ、抜けたら荒野』	22.93%	竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	6.53%

## \* カテゴリ4 (経済・労働)

山崎雅弘『戦前帰郷』	57.37%	本田透『電波男』	8.79%
中谷巖『資本主義はなぜ自壊したのか』	55.61%	勢古浩爾『まれに見るバカ』	8.80%
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	53.20%	堀井憲一郎『やさしさをまとった滅亡の時代』	11.55%
與那覇潤『中国化する日本』	49.27%	深澤真紀『草食男子世代』	12.15%
森嶋通夫『日本はなぜ没落するか』	47.65%	武田砂鉄『紋切型社会』	12.36%
谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』	42.98%	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	12.74%
山田昌弘『希望格差社会』	42.98%	土井隆義『友だち地獄』	12.78%
ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』	42.22%	大澤真幸『虚構の時代の果て』	13.32%
和田秀樹『この国の冷たさの正体』	41.91%	小原信『モード社会の「われとわれわれ」』	13.62%
池田整治『マインドコントロール』	39.76%	奥田愛基『変える』	13.94%

《劣化言説の時代》と《ポスト劣化言説の時代》の比較研究  
月刊テキストマイニングレポート Vol.8 2017年12月31日号（特別編）

\* カテゴリ9 (愚痴としての傾向)

兵頭新児『はくたちの女災社会』	31.21%	佐伯啓思『日本の宿命』	0.82%
勢古浩爾『まれに見るバカ』	26.61%	加藤典洋『戦後入門』	0.96%
本田透『電波男』	21.86%	東浩紀『一般意志2.0』	1.17%
門脇厚司『子どもの社会力』	15.71%	白井聡『永続敗戦論』	1.19%
宮台真司『まぼろしの郊外』	13.81%	山崎雅弘『戦前回想』	1.24%
マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』	13.36%	高村薫『作家的覚書』	1.34%
中川淳一郎『バカざんまい』	13.24%	渡邊雄雄『反ポピュリズム』	1.57%
荷宮和子『バリバリのハト派』	13.14%	大澤真幸『虚構の時代の果て』	1.73%
上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』	12.94%	東浩紀『ゲンロン0 観光客の哲学』	1.79%
三浦展『下流社会』	11.92%	中谷巖『資本主義はなぜ自壊したのか』	1.79%

\* カテゴリ10 (統治・憲法)

加藤典洋『戦後入門』	29.54%	深澤真紀『草食男子世代』	0.11%
山崎雅弘『戦前回想』	27.99%	原田曜平『ヤンキー経済』	0.19%
白井聡『永続敗戦論』	24.51%	熊代亨『ロスジェネ心理学』	0.19%
八木秀次『反「人権」宣言』	20.13%	山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』	0.36%
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	19.59%	齋藤孝『日本人の心はなぜ強かったのか』	0.39%
姜尚中『愛国の作法』	14.71%	山田昌弘『希望格差社会』	0.44%
與那覇潤『中国化する日本』	14.70%	松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論』	0.45%
池田整治『マインドコントロール』	12.63%	土井隆義『友だち地獄』	0.48%
西部邁『国民の道徳』	11.02%	片田珠美『一億総ガキ社会』	0.49%
佐々木俊尚『21世紀の自由論』	10.75%	イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』	0.50%

\* カテゴリ11 (メディア文化)

中川淳一郎『ウェブはバカと暇人のもの』	30.50%	斎藤貴男『機会不平等』	2.10%
本田透『電波男』	22.74%	佐藤俊樹『不平等社会日本』	2.44%
門脇厚司『子どもの社会力』	16.38%	藻谷浩介『里山資本主義』	2.60%
柳田邦男『壊れる日本人』	16.24%	佐伯啓思『日本の宿命』	2.95%
小原信『「モード社会」の「われとわれわれ」』	15.91%	佐々木俊尚『21世紀の自由論』	3.36%
齋藤孝『日本人の心はなぜ強かったのか』	15.66%	中谷巖『資本主義はなぜ自壊したのか』	3.53%
想田和弘『熱狂なきファシズム』	15.53%	西部邁『国民の道徳』	3.67%
熊代亨『ロスジェネ心理学』	15.47%	三浦展『第四の消費』	3.96%
柳美里『仮面の国』	15.36%	小熊英二『決定をえるには』	4.00%
荷宮和子『バリバリのハト派』	14.71%	渡部昇一『決定版 日本人論』	4.02%

\* カテゴリ12 (哲学)

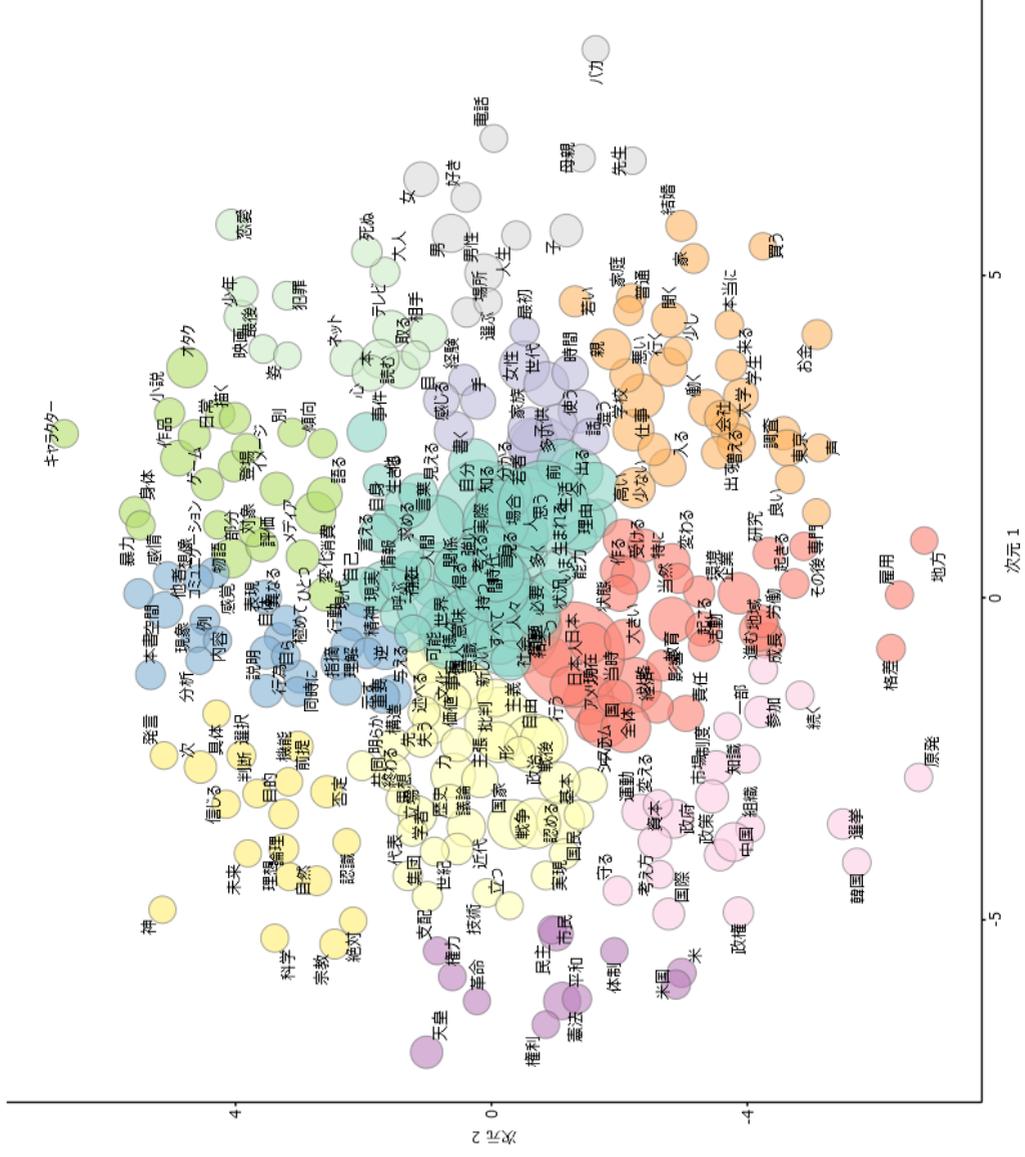
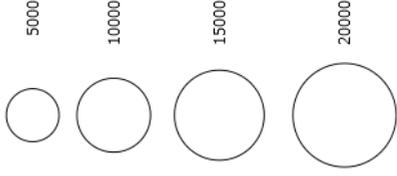
大澤真幸『虚構の時代の果て』	26.94%	勢古浩爾『まれに見るバカ』	2.40%
山崎雅弘『戦前回想』	22.94%	岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	2.44%
北田暁大『嗤う日本の「ナショナリズム」』	17.95%	ブレイディみかこ『This is Japan』	2.47%
大澤真幸『不可能性の時代』	17.75%	雨宮処凛『生きさせろ！』	2.58%
鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義』	16.43%	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	2.66%
八木秀次『反「人権」宣言』	16.10%	税所篤快『ゆとり世代の愛国心』	2.66%
姜尚中『愛国の作法』	15.52%	山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』	2.75%
堀有伸『日本のナルシズムの罪』	14.73%	三浦展『下流社会』	2.82%
藤原正彦『国家の品格』	14.72%	奥田愛基『変える』	3.09%
白井聡『永続敗戦論』	14.51%	野田正彰『この社会の歪みについて』	3.11%

# 間違いだらけの論客選び

Clusters:

- cluster 01
- cluster 02
- cluster 03
- cluster 04
- cluster 05
- cluster 06
- cluster 07
- cluster 08
- cluster 09
- cluster 10
- cluster 11
- cluster 12

Frequency:





# 第二部 個別論者分析編

# 櫻井よしこ

## 『日本の危機』

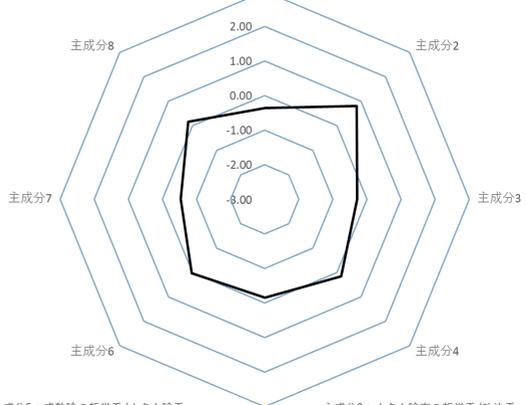
新潮社、1998年（新潮文庫版使用）

書籍コード： X1998年S\_櫻井よしこ『日本の危機』

主成分のリーダーチャート

関連語	対応分析：主成分	順位
出来る	0.0375	71
新聞	0.0373	21
税	0.0327	68
述べる	0.0313	52
語る	0.0298	65
朝日	0.0285	57
地方	0.0244	85
報道	0.0243	55
販売	0.0239	
議員	0.0234	

主成分7：宮台社会学/マーケティング系社会学 主成分1  
主成分8：サブカルチャー論/劣化言説 3.00 主成分1：若者文化/政治  
主成分2：労働論/オタク論



主成分5：成熟論の哲学系/オタク論系  
主成分6：決断主義系/コミュニケーション系 主成分5  
主成分3：オタク論者の哲学系/政治系  
主成分4：若者論の政治系/生き方系

コーディング	使用率	順位
*カテゴリ1 (評論としての傾向)	38.27%	105
*カテゴリ2 (思想)	20.31%	54
*カテゴリ3 (世代論・女性論)	10.03%	65
*カテゴリ4 (経済・労働)	24.81%	53
*カテゴリ5 (精神・感覚)	9.11%	68
*カテゴリ6 (生き方)	14.36%	57
*カテゴリ7 (オタク論的傾向)	7.37%	74
*カテゴリ8 (政治・外交)	10.67%	36
*カテゴリ9 (愚痴としての傾向)	3.83%	54
*カテゴリ10 (統治・憲法)	3.10%	50
*カテゴリ11 (メディア文化)	4.05%	94
*カテゴリ12 (哲学)	4.27%	88

1990年代終わり頃の《劣化言説の時代》を象徴するような本。取り扱われている問題も、政治や経済はもとより、教育、女性、メディア、そして日本人の国民性に至るまで多岐にわたっている。しかし、それが災いしてか、分析結果としては「特徴がないのが特徴」とでも言うべきものになってしまった。主要な8個の主成分はほとんどゼロ値に近く、リーダーチャートは正八角形にかなり近い形となっている。カテゴリー別の単語の使用率についても、評論的傾向が強い書籍であるにも関わらず、その評論で使われているような語句の使用率が最も低い。これは、もとより日本の「危機」を裏付けるために様々な人にインタビューしたことが本文に多いということもあるかもしれない。

ただ、関連語においては若干の特徴が見られる。関連語として抽出された者に「新聞」「朝日」などがあり、新聞、特に朝日新聞の報道姿勢や現状について疑問を呈した記事がいくつか見られた。このときの著者は現在のようにかなり強い保守的傾向を持っているわけではないものの、その一端を垣間見ることができる。その後の櫻井の言説がどうなったかについては、次回の課題となりそうだ。

# 門脇厚司

『子どもの社会力』

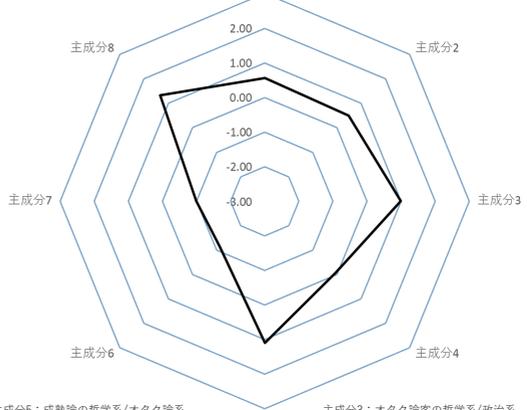
岩波新書、1999年

書籍コード： X1999年K\_門脇厚司『子どもの社会力』

主成分のリーダーチャート

関連語		対応分析：主成分	順位
ヒト	0.1664	主成分1 0.5560	34
相互	0.1140	主成分2 0.4886	37
子	0.0726	主成分3 0.9952	12
行為	0.0683	主成分4 -0.0667	65
大人	0.0627	主成分5 1.0930	7
遊び場	0.0622	主成分6 -1.1435	94
赤ちゃん	0.0603	主成分7 -0.9867	99
形成	0.0541	主成分8 1.3254	2
先天的	0.0518		
生後	0.0469		

主成分7：宮台社会学/マーケティング系社会学 主成分1 主成分1：若者文化/政治  
主成分8：サブカルチャー論/劣化言説 3.00 主成分2：労働論/オタク論



主成分5：成熟論の哲学系/オタク論系 主成分3：オタク論客の哲学系/政治系  
主成分6：決断主義系/コミュニケーション系 主成分5 主成分4：若者論の政治系/生き方系

コーディング	使用率	順位
* カテゴリー1 (評論としての傾向)	69.03%	8
* カテゴリー2 (思想)	15.92%	74
* カテゴリー3 (世代論・女性論)	28.27%	6
* カテゴリー4 (経済・労働)	33.21%	23
* カテゴリー5 (精神・感覚)	28.52%	5
* カテゴリー6 (生き方)	21.22%	22
* カテゴリー7 (オタク論的傾向)	9.23%	49
* カテゴリー8 (政治・外交)	6.12%	65
* カテゴリー9 (愚痴としての傾向)	15.71%	4
* カテゴリー10 (統治・憲法)	0.56%	91
* カテゴリー11 (メディア文化)	16.38%	3
* カテゴリー12 (哲学)	8.52%	38

〈劣化言説の時代〉は若者論の時代でもあった。この本の著者の門脇厚司や、後で出てくる尾木直樹などをはじめ、「様々な教育学者、社会学者、教育評論家が子供・若者の不可解さ」から現代社会を論じようとした。門脇が依って立つ認識は、現代の子供が生育環境の変化などにより「社会力」なるものが低下しているというものだ。それが様座名問題に繋がっているとみる。このような論調は、少なくとも2010年頃までは変わっていないようである（『社会力を育てる』岩波新書、2010年）。

そのような門脇の「社会力」概念による子供・若者論、そして現代社会論の出世作であるこの書籍のパラメータを見ると、まず対応分析では主成分6・7が負の方向に振れていることがわかる。主成分6の負方向はコミュニケーション関係、そして主成分7の負方向が、どちらかと言えばマーケティング系の社会学に親和的な傾向を示すことから、若い世代のコミュニケーションのあり方の変化を重視する、後のマーケティング言説に繋がる議論が、門脇の中に見られると見ていいだろう。

またカテゴリ別単語の使用率と見ると、カテゴリ3・5・9・11の使用頻度が全体で極めて高い。とりわけ学者の言説であるにも関わらず、感情論や「愚痴」としての性質の強さを示すカテゴリ9の使用頻度が上位10位に入ってしまうあたり、この時代の若者論の印象論としての傾向が強く見られると言える。

# 森嶋通夫

## 『日本はなぜ没落するか』

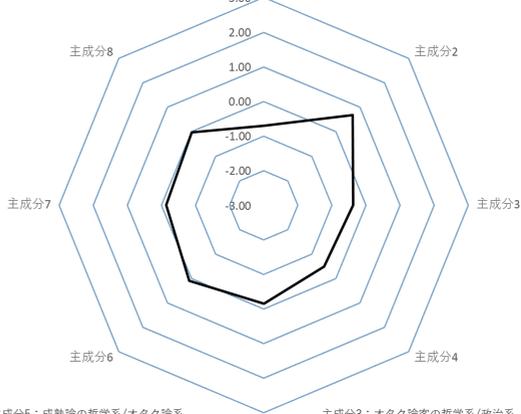
岩波書店、1999年（岩波現代文庫版使用）

書籍コード： X1999年M\_森嶋通夫『日本はなぜ没落するか』主成分のリーダーチャート

関連語	
入達	0.0537
束条	0.0452
全く	0.0422
イノベーション	0.0420
行なう	0.0411
アジア	0.0402
政界	0.0396
没落	0.0380
銀行	0.0361
大学	0.0350

対応分析：主成分	順位
主成分1	-0.7029
主成分2	0.6940
主成分3	-0.3766
主成分4	-0.4957
主成分5	-0.1465
主成分6	0.0947
主成分7	-0.1429
主成分8	-0.0168

主成分7：宮台社会学/マーケティング系社会学  
主成分8：サブカルチャー論/劣化言説  
主成分1：若者文化/政治  
主成分2：労働論/オタク論



主成分5：成熟論の哲学系/オタク論系  
主成分6：決断主義系/コミュニケーション系  
主成分3：オタク論者の哲学系/政治系  
主成分4：若者論の政治系/生き方系

コーディング	使用率	順位
* カテゴリ1 (評論としての傾向)	52.89%	67
* カテゴリ2 (思想)	32.35%	26
* カテゴリ3 (世代論・女性論)	8.07%	89
* カテゴリ4 (経済・労働)	47.65%	5
* カテゴリ5 (精神・感覚)	10.85%	60
* カテゴリ6 (生き方)	21.08%	24
* カテゴリ7 (オタク論的傾向)	3.16%	104
* カテゴリ8 (政治・外交)	11.77%	30
* カテゴリ9 (愚痴としての傾向)	2.37%	83
* カテゴリ10 (統治・憲法)	3.62%	44
* カテゴリ11 (メディア文化)	5.45%	76
* カテゴリ12 (哲学)	7.03%	53

2004年に逝去した、国際的に有名な経済学者（例えば宇沢弘文などよりも早く国際的な学会・研究所の会長職などを歴任した）が晩年に書いた現代社会論。ただ文章を読む限り、著者が日本の大学で経験した日本の若者への不満ばかりが綴られている印象を受けた。その割にはカテゴリ3や9の単語の使用頻度が低いあたり、ある程度言葉を選んで社会を論じていると言えるのかもしれないが……。

リーダーチャートに特徴と言えそうなのは、カテゴリ別の単語の使用率では、やはり経済学者らしくカテゴリ4の経済・労働関係の単語の使用率が極めて高い。また当時からイノベーションの大切さ、アジア諸国などの政治や歴史観の共有の大切さを語っていたためか、それ関係の単語が関連語として現れた。

ただ、統計には現れていないが、この本はどちらかと言えば自らの業績などに対する「回顧録」としての傾向が強い。とはいえ、《劣化言説の時代》においては、このような「回顧録」に現代の社会や若者を憂慮してみせるような記述が現れるのも少なくはない。それらについては、また今後の研究の課題となりそうだ。

# 福田和也

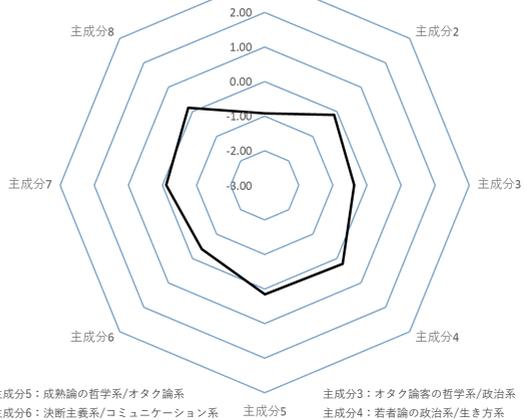
『余は如何にしてナショナリストとなりし乎』  
光文社、2000年

書籍コード： X2000年F\_福田和也『余は如何にしてナショ』主成分のリーダーチャート

関連語	
云う	0.1535
ナショナリ	0.0516
極めて	0.0385
わが国	0.0381
左翼	0.0367
国	0.0338
国民	0.0268
ナショナリ	0.0252
フランス	0.0244
無論	0.0238

対応分析：主成分	順位
主成分1	-0.9251 91
主成分2	-0.1221 75
主成分3	-0.3779 73
主成分4	0.2264 46
主成分5	0.1568 39
主成分6	-0.3947 73
主成分7	-0.1071 49
主成分8	0.1726 54

主成分7：宮台社会学/マーケティング系社会学  
主成分8：サブカルチャー論/実化言説  
主成分1：若者文化/政治  
主成分2：労働論/オタク論



コーディング	使用率	順位
*カテゴリー1 (評論としての傾向)	53.34%	64
*カテゴリー2 (思想)	33.56%	21
*カテゴリー3 (世代論・女性論)	11.26%	57
*カテゴリー4 (経済・労働)	35.98%	18
*カテゴリー5 (精神・感覚)	19.52%	22
*カテゴリー6 (生き方)	9.42%	86
*カテゴリー7 (オタク論的傾向)	5.83%	84
*カテゴリー8 (政治・外交)	11.40%	35
*カテゴリー9 (愚痴としての傾向)	3.41%	63
*カテゴリー10 (統治・憲法)	6.46%	28
*カテゴリー11 (メディア文化)	5.38%	77
*カテゴリー12 (哲学)	7.09%	52

主成分5：成熟論の哲学系/オタク論系  
主成分6：決断主義系/コミュニケーション系  
主成分3：オタク論者の哲学系/政治系  
主成分4：若者論の政治系/生き方系

当時気鋭の若手保守論客として売り出していた著者が、ナショナリズムや愛国心の重要性について述べた本。のっけからこの本について「斬奸状」と表現しており、国家の敵になるような「似非右翼」「似非左翼」は国家の名において殺すことも検討すべきではないか、とまで述べられている。ただ著者は当時の「新しい歴史教科書をつくる会」的な保守運動には懐疑的だった。

ただ、これも、先の櫻井よしこの『日本の危機』と同様、社会問題が（櫻井ほどではないとはいえ）総花的に取り扱われていることから、リーダーチャート、カテゴリー別の単語の使用頻度でも「特徴がないのが特徴」と言えるような結果になっている。リーダーチャートでわずかながら見える特徴と言えば、主成分1が若干負の方向に傾いている程度か。このことから本書は政治にある程度スペースを割いて論じているものと言うことができる。

また、櫻井の著書では関連語からある程度言説としての独自性を見出すことができたが、福田の本書については関連語からも、タイトルからわかるところ以外の独自性を見出すことが難しい。「国」「わが国」などの表現は特徴語として挙げられているものの、取り立てて言説の特徴として特筆すべきものでもなさそうだからだ。本書では保守系の言説も少くない量採り上げているが、それらの中で埋没してしまった印象である。